

海浜実習における実施直前の準備作業について

— 仙台大学の場合（2） —

宮 城 進

はじめに

仙台大学の海浜実習について前回は、その意義、教育目標・効果、実施要領等を紹介した。また、より安全で、より教育的効果のある管理・運営法を追求することを目的に、特に実施に至るまでの計画、準備作業について報告した。

準備作業については、参加一般学生（以下、実習生¹³⁾と称する）に対する事前の指導や備品の購入等、計画案決定から実施直前までの比較的時間、日数を要する領域での作業内容であった。事前の準備作業には、これに加え、指導スタッフが実習実施直前（前日等）に実際に現地入りし、実習場の整備や宿舎の部屋の確認等の準備作業をする必要があると思われる。また、用具の直前の運搬、実習当日の実習生の移動、引率等の輸送作業もある。日数的には短期間ではあるが、極めて重要な任務、作業内容が直前に数多く存在している。

そこで本研究は前回に引き続き、基本的にはより安全で、より教育的効果をもたらすための管理・運営法を追求することを目的に、特に今回は実習実施直前の準備作業とその内容について、平成4～6年度に実施された仙台大学海浜実習の実例⁸⁾を基に明らかにした。

1. 直前の準備作業内容

1. 指導スタッフ打合せ会議

実習実施1, 2週間前になった段階で、補助指導学生⁸⁾を含めた指導スタッフ全員を招集し、

当初の計画に変更点を加えた最終決定計画案について、以下のような内容で最終の打合せを実施する。

打合せ会議の主な目的と確認事項

- ①指導教職員と補助指導学生との顔合せ
- ②指導要項（日程、日課、指導内容・担当者、宿舎担当者、部屋割、バス配車、参加者名簿等）の配布と、最終計画案の説明（表1～4参照）

表1 指導カリキュラムと日程

(1994)

	7/18月	7/19火	7/20水	7/21木	7/22金
午前	移動日 出発 9:00 到着 13:00	級別指導 ・点呼 ・入退水 能力 チェック 入替え	級別指導	救助法 (全員)	スキング ダイビング (全員)
午後	開講式 (14:30～) 全体指導 ・点呼 ・入退水 級別指導	級別指導 能力 チェック 入替え 完了	級別指導 A級予行	大遠泳 (全員)	移動日 閉講式 (13:30) 出発 14:00 到着 18:30
夜	各民宿 ミーティング (民宿・担当教員)				
<p>《実 技》 午前 9:00～11:00 (上陸) ～11:15解散 午後 14:30～16:45 (上陸) ～17:00解散 内 容 泳法・小～大遠泳・救助法・スキングダイビング 海浜遊ギ・海浜探索, etc.</p>					
<p>《講 義》 夜 20:00～21:00 (7/18のみ) 内 容 民宿担当教員 ・共同生活の意義 ・生活上の留意点, etc.</p>					

表 2 海浜実習指導員組織名簿 (1994)

1. 全体指導, 救助法		宮 城 鈴木(省)		指導班補助学生全員	
2. 級別指導					
	A 級	B 級	C 級	D 級	
教 員	主: 藤 井 齊 藤 寒河江	主: 藤 原 勝 田 永 田	主: 横 川 小 川	主: 丸 山 中 房	
補 助 学 生	◎ 熊 沢 小 山 町 田 桑 田 伊 藤 馬 場 鹿 間 青 木	◎ 佐藤(超) 中 川 小 杉 田 中 福 原 渡 辺 松 田 佐藤(香) 高 橋	◎ 金 井 仙 田 生 井 福 沢 畑 八 木 松 本 戸 林	◎ 平 間 木 村 野 藤 林 小 沢 熊 谷 秋 山 島 地	
3. 救助班					
	船外機隊	手漕ぎ隊	監視隊	補助学生	
教 員	◎: 佐藤(久) 児 玉 舟 山	・ 岡 村 鈴木(敏)	・ 大和田 佐藤(幹) 平 田 山 谷	・ 藤 原 小川(真) 足 立 小川(克) 小 林 笹 川	
補 助 学 生					
4. 調査班			5. 医務班		
	教 員	補助学生	教 員	補助学生	
	◎: 熊 坂 高 橋	・ 山 崎 渡辺(準)	◎: 本 多 春 藤 吉 野	・ 水 沢 丹 治	

表 3 民宿担当教員および補助学生 (1994)

号	学生人数配分			
	担当教員	担当補助学生	人 数	民宿番号 TEL
1	横 川	熊沢 小山 町田	18+3=21	18. 佐藤 元作 73-2164
2	齊 藤	伊藤 仙田 生井 馬場 福沢 福原 熊谷	18+7=25	28. 佐藤 富五郎 73-3165
3	勝 田	佐藤(超) 中川 小杉	25+3=28	29. 佐藤 鶴吉 73-3164
4	児 玉	松本 畑 八木 渡辺 鹿間 松田	20+6=26	30. 石川 国子 73-2472
5	藤 原	林 田中 小沢 桑田	20+4=24	33. 佐藤 紋一 73-3665
6	春 藤	青木 高橋 宍戸 松島 秋山 水沢 丹治	15+7=22	57. 本間 義一 73-2552
7	寒河江	平間 金井 野藤 木村 藤原 足立 小川(真)	22+16+26 =64	今江旅館 73-2174
計			138+64=202	

表 4 日 課 表 (1994)

指 導 員 日 課	
6:30	起 床
7:00	朝 食 (学生合同)
8:30	午前打合わせミーティング
8:45	出 発
9:00	午前実技開始
11:15	午前実技終了
12:00	昼 食
14:00	午後打合わせミーティング
14:15	出 発
14:30	午後実技開始
17:00	午後実技終了
17:30	反省ミーティング
18:00	夕 食
20:00	講 義 (初日のみ)
21:00	宿舎別点呼・見回り
22:30	消 灯
実 習 生 日 課	
6:30	起 床
7:00	朝 食
8:	出 発 (宿舎ごと)
8:55	本部テント前整列完了
9:00	午前実技開始
11:15	午前実技終了
11:40	食事当番作業開始
12:00	昼 食
14:	出 発 (宿舎ごと)
14:25	本部テント前整列完了
14:30	午後実技開始
17:00	午後実技終了
17:40	食事当番作業開始
18:00	夕 食
20:00	講 義 (初日のみ)
21:00	点 呼
22:00	消 灯

- ③各担当役職者の紹介と, 役割・職務内容の説明
- ④最終参加人員数と, それに伴う指導各級, 宿舎の人数配分の確認
- ⑤事前準備のための現地入りスタッフの行動予定
- ⑥実習生の輸送計画についての引率担当教員との打合せ
- ⑦各班ごと, 特に指導班は各級ごとの役割と職務内容の確認

2. 事前に現地入りするスタッフの作業内容

実習実施直前に現地入りして実施しなければならない準備作業は担当班ごとに数多くある。従って, 担当班はその作業量に合わせた日数だけ, 担当班別に実習生および引率担当教員(以下, 本隊と称する)より先に現地入りし, その任にあたらなければならない。

担当班別の作業内容は以下の通りである。ま

た、仙台大学の実例を表 5-1, 2 に示した。

表 5-1 前日午後準備作業内容

(1994)

12:00	昼食(全員 本部・含宿泊)後・・・打ち合せ会
13:00	必要備品配布
14:00	行動開始(本部, 医務班, 生活班以外は水着着用) 《指導班・救助班》
	1. 備品の移動; 全員 〇 今江旅館倉庫・本部→海岸 〇 本学バス→海岸・本部
	2. テント設営 本体 3 張組立, シート洗濯, 旗作り ・藤井, 斎藤, A級補学 ボート作り(ガソリン購入) ・佐藤(久), 鈴木(敏), 永田, 救助補学 イカダ造り・和舟運搬 ・丸山, 藤原, 寒河江, 舟山, 小川, B・C級補学 アンカ・ブイ付ロープ・目印ブイ造り・新備品名前書き ・鈴木(省), 中房, D級補学(男子)
17:00	3. アンカ・救助用ロープ設置 ・全員, 救助班(試運転)
13:30	《生活班》
	1. 学生用日課表・部屋割表作り; ・横川, 春藤, 女子補学(全員)
	2. 食事当番計画
16:30	3. 民宿あいさつ及び各表掲示・説明
14:00	《調査班》
	1. 海水, 海底調査; ・熊坂, 高橋, 調査班補学
14:00	《本部・医務班》
	1. 観光協会・監視本部・診療所あいさつ; ・宮城, 医務班補学
17:00	全作業終了予定
18:00	夕食
19:00	生活班ミーティング; ・生活班主任, 民宿担当教員及び全補学
22:00	消灯

表 5-2 当日午前準備作業内容

(1994)

7:30	朝食・・・打ち合せ会
8:30	各民宿あいさつ視察; 各民宿担当教員及び補学(男子) (その際, 補助学生は荷物を移動)
9:25	テント前集合(水着着用)
9:30	作業開始
	1. 本部テント内部配置, 旗設置
	備品チェック ; ・藤井, 斎藤, 寒河江, A級補学 トランシーバーテスト ; ・丸山, 中房, 永田, 各級女子補学 ボート準備・試運転 ; ・横川, 藤原, 救助補学 ; ・佐藤(久), 鈴木(敏), 児玉, 小川, 和舟準備・試運転 ; ・舟山, B・C級男子補学 環境調査 ; ・熊坂, 高橋, 調査班補学
10:00	2. 実技予行(リーダー斎藤)
	点呼練習 ; ・斎藤, 指導班補学 入退水練習 ; ・斎藤, 指導班補学 救助法練習 ; ・宮城, 指導班補学 小遠泳 ; ・指導班, 救助班, 調査班全員
11:30	全作業終了予定
12:00	昼食(全員)
	打ち合せ
13:00	受け入れ準備, 駐車場集合; 各民宿担当教員, 補学全員
13:15	引継ぎ・対面式
13:45	第1回仙台大学海浜実習打ち合せミーティング
14:15	出発
14:30	開講式
17:00	全終了予定
17:30	第1回仙台大学海浜実習反省ミーティング
18:00	夕食

① **調査班**……調査班の役割のうち、実習実施直前の環境調査は特に重要な職務である。

本実習での調査班は、4日前から現地入りし、下記の環境調査項目について調査を実施している。

また、補助指導学生を被験者として、実際に実施予定の遠泳コースを泳がせ、水温等に対する生体反応調査¹³⁾も実施している。なお、実習中はこの測定に同意を得られた実習生を被験者として実施する。それらの調査結果を基に、遠泳の実施可能な水域が決定される。

1) 環境調査項目

- イ) 出発地点の地勢（海岸，港湾等）
- ロ) 上陸地点の地勢（海岸，港湾等）
- ハ) 遠泳予定コースの海底域（水深，地形，地質，海藻等）
- ニ) コースの水面域（水温，水質，浮遊物，潮流向，流速，波形，波高等）
- ホ) コースの水面上（天候，気温，湿度，風向，風速等）
- ヘ) コース上の障害物（岩礁，定置網，漁船等）
- ト) コース変更時（応急コース，緊急上陸地点の確保等）

2) 環境調査測定器具等

- 天 候：気象情報，現地観測
- 気 温：アネモメーター
- 湿 度：湿度計
- 水 温：電気式デジタル水温計
- 砂 温：温度計
- 風 向：手持ち型風向計
- 風 速：アネモメーター
- 流 向：電気式流向流速計
- 流 速：電気式流向流速計
- 水 深：水深計
- 波 高：竹竿製計測棒
- 透 明 度：透明度板
- 大腸菌群：大腸菌群陽性反応試験¹⁶⁾
- 有害生物：ネットによる採集

3) 生体反応調査項目と測定器具

- イ) 実技前，後

心 拍 数：触診法（起床時，就寝前）

体 重：体重計（起床時，就寝前）

フリッカー値：フリッカー測定器（起床時，就寝前）

尿 ：尿検査試験紙（項目：ウロビリノーゲン，蛋白，pH，ブドウ糖，潜血）

摂取飲食物：摂取した飲食物全てについて各自記入

ロ) 実技中

直 腸 温：2チャンネルデータロガー

心 拍 数：2チャンネルデータロガー

主観的運動強度：Borg 考案を小野寺らが日本語訳したスケール使用(RPE)

温 冷 感：空調衛生工学会試案スケール使用

快 適 感：空調衛生工学会試案スケール使用

② **備品・用具輸送班**……輸送班は調査班の作業計画に伴い、その日程に合わせて以下の物品を輸送する。

イ) 調査船，救助船用の船外機

ロ) 船外機用・手漕ぎ用ゴムボート

ハ) 海浜本部用テント，長テーブル，椅子等

ニ) 水泳実技に必要な用具

ホ) イカダ用ドラムカン，木材等

ヘ) 調査用測定器具

ト) 救助用具

チ) 医務用具および医薬品

リ) 水中カメラ，ビデオカメラ等

本実習ではそれらを大型トラックをチャーターして現地まで輸送し、現地宿泊施設の倉庫等を借用し、格納している。

③ **生活班**……生活班は実習実施前日に現地入りし、事前宿泊計画に従い、以下の作業内容を実施する。

イ) 本部および実習生宿舍の訪問

ロ) 各部屋ごとの各表作成と掲示

ハ) 日課表の作成と掲示

ニ) 各宿舍ごとの食事当番の配分計画の立案と配分表の作成と掲示

ホ) 各宿舍の非常口の確認

ヘ) 緊急避難計画⁸⁾に基づく避難場所と道路の確認

- ④ **指導班**……指導班は前日に現地入りし、主に実習場となる海浜の整備、および指導効果を上げるための施設造り等、環境面の準備作業にあたる。

イ) 本部テント設営

実習場は多人数の集団が一同に集合したり準備体操等を行うので、それらが可能となる広くて平坦な砂浜を選定しなければならない。また、海上監視が全域にわたって可能な地点にテントを設営するのが望ましい。

なお、一般海水浴客と共有する場所であるので、選定には充分配慮する必要がある¹³⁾。

本部テント内では海上監視や救助船とのトランシーバーの交信、および医務作業を行うので、それらの作業が可能なスペースを確保する必要がある。

本実習においてのテント数は集会用テント(3.6×7.2m)3張を使用し、雨天の際の実習生のタオル、Tシャツ等の収納スペースも確保している。

ロ) 実習旗設置¹³⁾

遠泳では方向を確認するために目標物(目印)が必要とされている。本実習においても基本的な上陸地点を本部テント前においていることから、遠くからでも確認しやすい大きく高さもある実習旗を、本部位置を示す目印として設置している。

また、それに隣接して、各級ごとの集合や、人員を把握するための点呼の基準点として、各級ごとの旗も設置し、効果を上げている。従って、本部用の旗のほか、A~D級の旗があり、計5本をそれぞれ色分けして本部テント前に設置している。旗の大きさは縦0.9m、横1.8mであり、旗竿は約8.0mの竹竿を用いている。

ハ) イカダ造りと設置

近年の海水浴場でのイカダの設置件数は著しく減少傾向にあると思われるが、本実習のような本格的な海浜での水泳訓練では、イカダは極めて重要な補助施設であると考える。

用途としては主に初心者班の泳法指導としての樽廻り¹⁾や飛込み練習用の台として、または小遠泳時の休憩場所として利用できる。初心者が利用しやすいように海岸に近く、比較的浅い水深2.0~3.0mの地点に設置する。

本実習のイカダは、木製で浮力材としてドラムカンを6本使用した縦6.0m、横4.0mの手造り製のものである。毎年実施直前に組立て、実習終了時点で解体し、再利用できるように保管している。

ニ) 目印用ブイ作りと設置

前述のように遠泳においては目標物が必要であるが、特に沖に向かって泳いだ場合は目標物を見出すのはなかなか困難である。従って、人工的に目印となるブイ(浮力付の小旗等)を作成し、浜からの距離を測定した上で定置する。これにより遠泳時の方向の確認や遠泳距離の測定に役立てることができる。

本実習では海域をひし形状に4ヶ所の地点に分け、それぞれの地点が区別しやすいように旗の色を赤、黄、青、緑の4色に分け、目印用ブイとして設置している。

ホ) 緊急避難用ロープの設置

本実習では前述の通りイカダを設置しているが、浜からの索引用ロープも兼ねて、緊急時の泳力未熟者のための避難用ロープを設置している。ロープには浮玉ブイを10m間隔に1個ずつ取り付け、目印とともに常にロープが海面上にあるように工夫している。泳力未熟者は緊急を要する場合やイカダまで到達したい時は、ロープにつかまりながら進むことによって、泳がずにスピーディーに移動することができる。

- ⑤ **救助班**……救助班は前日に現地入りし、以下のような救助活動に必要な備品の整備や用具を準備する。

イ) 救助船用ゴムボートの組み立て

ロ) 船外機の整備・点検

ハ) 船外機用燃料調達

ニ) 試運転

- ホ) 借上和舟・手漕ぎボート手配の確認
- ヘ) トランシーバーの交信テスト
- ト) 目印ブイ設置
- ⑥ **本部責任者，庶務・医務班……**各班の準備作業時間中に，実習本部長，庶務班，医務班は以下の部所を訪問し，事前打合せ事項について再確認作業を行う。
 - イ) 地元観光協会；予約，許可事項の変更点等の確認
 - ロ) 警察，診療所；協力依頼と規制内容の再確認
 - ハ) 地元海水浴場監視本部（日本赤十字社出張所¹¹⁾含む）；現在の海浜状況，事故発生の有無等の確認
 - ニ) 大遠泳¹³⁾時の出発地点・緊急上陸地点；出発地点である港湾使用の許可再確認，輸送車の駐車スペース確保，緊急上陸地点での陸上作業の可否の確認，道路移動中でのトランシーバー交信テスト等

II. 予行演習

各班の準備作業が修了した段階で，指導内容と救助活動の確認をする意味で，先発の準備スタッフ全員で，大遠泳を想定したリハーサルを実施する。

仙台大学の場合は例年実習実施当日（14：30開講）の午前中，すなわち本隊が仙台大学を出発し，移動中の時間を利用し実施している。

リハーサル内容は以下の通りである。

- ① 指導班（全員）；浜での指導内容の確認
 - イ) 集団行動の実際と号令方法
 - ロ) 人員点呼の実際と号令方法
 - ハ) 入退水法の実際と号令方法
- ② 指導班（補助指導学生）；浜での確認
 - イ) 準備体操の指揮と号令方法
 - ロ) 人工呼吸法の模範演技
- ③ 指導班（全員）；海での指導・泳力の確認
 - イ) 小遠泳（約30～45分間）
- ④ 救助班（全員）；海での救助活動の確認
 - イ) 救助船の試運転

- ロ) 遠泳隊形に対する配置・指揮
- ハ) 救命浮環の投下方法
 - ニ) 泳者への接近方法
- ホ) 救助船への泳者の引き上げ方法
 - ヘ) トランシーバーの本部との交信テスト
- ⑤ 調査班（全員）；海での先行調査活動の確認
 - イ) 小遠泳予定コースの水域先行調査
 - ロ) 小遠泳実施中の水域コンディション報告

III. 本隊出発と輸送

実習生の現地までの輸送作業には，輸送班引率担当教員と医務班があたる。

出発当日，引率担当責任者はあらかじめ立案した輸送計画に従い，以下の内容について貸切バス運転手と打合せ，確認しておく。

- イ) 輸送ルート
- ロ) 有料道路利用の有無
- ハ) トイレ休憩の場所
- ニ) 昼食場所と予約時間
- ホ) 到着までのタイムスケジュール等

それと並行して，他の引率担当教員は，配車バスごとに実習生の出欠席を確認し，最終参加人数を把握する。

出欠席の確認作業が全て終了した時点で，大学事務局担当者に本隊出発時の総人数，欠席者名を報告する。事務局はあらかじめ現地入りしている実習本部へ，出発時間等を含めた上述の報告事項を電話連絡する。

なお，出発に際し医務班は，あらかじめ気分のすぐれない実習生や，バス酔いが予想される実習生を確認し，事前の処置をほどこしておく。

仙台大学の場合は，バスの引率者として各バスに医務班を含め1～2名を配置している。

また，実習生の当日欠席による昼食のキャンセル等の措置の必要性が生じた場合は，事務局より現地本部に連絡があった段階で，庶務班が速かに処理する。

さらに，移動中の本隊と現地本部との定時連絡は，トイレ休憩時と昼食後の出発直前に行う

ことになっている。これにより、現地スタッフも到着時間が予測でき、受け入れ準備体制が取りやすくなる。

IV. 現地受け入れと引継ぎおよび対面式

本隊受け入れ準備として生活班は、事前に民宿担当教員、補助指導学生と同行し、各民宿の位置、宿舎の部屋割、非常口の位置等を確認させる。

本隊の到着時間がほぼ判明した時点で、その時刻に合わせ、生活班および民宿担当者は、バス到着地点に集合し、本隊を出迎える。その際、各民宿の代表者にも同行してもらう。

本隊が到着したならば、担当者が各民宿ごとに実習生を整列させ、点呼をとる。総人数の確認がなされた段階で、引率教員より現地実習本部生活班に実習生の引継ぎが行われる。その後に対面式として、地元代表者の歓迎のあいさつや民宿担当教員、指導学生の紹介等を行い、終了の段階で、各民宿ごとに民宿担当者の誘導により宿舎へ移動する。

各民宿では入館後、各部屋に入室させ、部屋割の確認をする。その後、諸連絡として開講式までの行動と宿舎の利用方法を説明する。

おわりに

仙台大学は、体育・スポーツや健康の指導者を育成して、社会に貢献する人材の養成を建学の精神としてきた。海浜実習はその実践的試みとして、海浜という自然環境を媒体に、特に安全確保と共同生活に視点を置いて実施しているものである。

本実践的研究は、前述の目標を達成するために海浜実習の実施直前における準備作業内容について論じた。

その結果、以下の様な結論が得られた。

1) 実施直前の準備作業においては、担当内容によってその作業量に差異があり、作業日程

も同一ではなく、担当班ごとに計画しなければならない。

2) 実施直前の準備作業は時間的に極めて綿密に計画されており、担当領域間の連携が重要となってくる。

3) 実施指導内容に則した予行演習を必ず実施しておく必要がある。

4) 参加人数等の計画変更が生じた場合に、迅速な措置がとれる様に、あらかじめ準備計画しておく必要がある。

今回は海浜実習の管理・運営法における実施直前の準備作業内容について明らかにした。

つづいて指導内容と管理・運営の実際について取りあげる予定である。

引用・参考文献

- 1) 荒木昭好：図解コーチ水泳，成美堂出版，1983，pp138-149.
- 2) 学校体育研究同志会編：水泳の指導，ベースボールマガジン社，1976，pp77-87.
- 3) 波多野勲：水泳教室，大修館書店，1978.
- 4) 木庭修一：たのしい水泳，国土社，1982，pp152-180.
- 5) 木庭修一，山川岩之助：水泳の段階的指導と安全管理，ぎょうせい，1976.
- 6) 小森栄一：指導者のための救急法，技術書院，1980.
- 7) 小森栄一：水泳指導と救助法，二宮書院，1975.
- 8) 宮城進：海浜実習における基礎実施計画から実施に至るまでの過程—仙台大学の場合—，仙台大学紀要，24.
- 9) 宮畑虎彦：学校水泳指導法，文教書院，1969.
- 10) 宮畑虎彦，杵渕政光：水泳，不昧堂出版，1982，P157.
- 11) 日本赤十字社編：赤十字水上安全講習教本，日赤出版普及会，1980.
- 12) 日本水泳連盟編：水泳指導教本，大修館書店，1983.
- 13) 日本体育大学水泳運動学研究室編：臨海学校の企画と運営，遊戯社，1988.

- 14) 日本YMCA編：水泳リーダーハンドブック, 日本YMCA 同盟出版部, 1982.
- 15) 岡田俊彦, 藤本裕次郎, 小田敏彰：野外教育指導叢書(上) —夏期野外学習・安全管理—, 日本体育大学レクリエーション研究室, 1974.
- 16) プールの維持管理に関する委員会編：水泳プール管理の実際, ぎょうせい, 1981, P51.
- 17) 佐野清次郎：遠泳—指導法と海の知識—, 不昧堂出版, 1968.
- 18) 杉原潤之輔, 林利八：小学校の水泳, 泰流社, 1980, P106.
- 19) 杉原潤之輔：水泳, 泰流社, 1975.
- 20) 梅田利兵衛：水泳, 虹有社, 1966.

Preparation Work Immediately Before the Swimming Training Camp

— Case of Sendai College • II —

Susumu MIYAGI

At Sendai College, the educational objective has always been to develop individuals who will contribute to the society by becoming Physical Education teachers or as instructors in sports and health related fields. The swimming training camp is one of the testing grounds for how well students adapt and function in a natural environment. Students also learn the importance of safety precautions and working within a group environment.

This study is concerned with operations and methods necessary for successful swimming camp. As results of this study, following points were concluded.

- 1) There are various areas of responsibility involved within the total preparation. This study showed that each area had different amount of workload and time necessary for completing their objectives. Conclusion was that each area has to plan separate work and time schedule since it was impossible for all the areas to follow one schedule.
- 2) It was critical that the work and time schedule of each area be strictly followed. There were many instances where work of one area could not begin until work by another area was completed.
- 3) Pretesting of swimming courses and equipments were vital to the safety and the smooth operation of the actual camp.
- 4) Alternate schedules for the camp should be made in case of decrease in number of participants or for bad weather conditions.

This research was concerned with planning and preparations immediately preceding the actual camp. The next study following this research will examine teaching methods, management and actual operation of the camp.